認定特定非営利活動法人
日本がん登録協議会
JACR Japanese Association of Cancer Registries

NEWSLETTER 年2回発行
JACR ニューズレター
September.2021 No.51

認定NPO法人になりました!

2005年 保健文化賞 受賞

2016年 朝日がん大賞 受賞

日本がん登録協議会第30回学術集会報告

田渕 健　JACR理事／第30回学術集会大会長
東京都立駒込病院

新型コロナ感染症拡大局面の中、第30回学術集会は、前回に続き、WEB開催とし、2021年6月9日(水)～6月11日(金)にライブ配信、6月14日(月)～7月9日(金)にオンデマンド配信しました。

前回の経験を生かし、新型コロナ感染症の終息は困難との理事会判断に基づき、今回は完全WEB開催として準備しました。直前迄実開催を模索しましたので、開催業務開始は2021年1月21日のことです。私が所属する駒込病院や兼務先の福祉保健局は、新型コロナ感染症対応業務が増加しているため、全ての運営を外注いたしました。

準備期間が半年と短いにもかかわらず、ライブ配信、オンデマンド配信合わせて304名の方に参加登録いただきました。実開催と比較するのは不適切かとは思いますが、参加者数で言えば第26回愛媛大会に次ぐ規模となりました。しかし、準備不足は否めず、細部への配慮が行き届かず、会員並びに参加者の皆様方にはご不便をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。このような困難な状況の中でも協賛をいただきました企業の皆様には厚く御礼申し上げます。進行を支えてくださった理事会や専門委員の皆様方にも多大なるご協力を頂きました。

学術集会のテーマは、三上春夫先生(千葉県がんセンター)がかねてから提唱されてきた「がん登録インフォマティックス」の視点を発展させるために「がん登録を支える技術」といたしました。三上先生は、東京都の地域がん登録事業が始まった2012年、東京都のがん登録の推進を期して、がん登録インフォマティックス研究会を駒込病院にて開催して頂きました。この研究会はインフォマティックス委員会にも引き継がれています。学術集会のサブテーマは、第3期がん対策基本計画に重点施策としてとりこまれ、がん登録としても今後更なる質的向上が求められる「希少がん、小児・AYA世代のがん」を取り上げました。

テーマは企画プログラムに取り込み、インフォマティックス委員会企画シンポジウム「がん登録を支える技術」、基調講演「希少がん、小児・AYA世代のがん」、特別企画講演「レジストリデータをデータサイエンスの視点から捉える」、特別講演「小児・AYA世代のがん医療の取り組み」、安全管理委員会企画講演、広報委員会企画講演、学術奨励賞受賞講演で構成しました。がん登録担当者研修会「希少がん・小児がんに親しむ」は、今回に限り、参加資格を別立てせず学術集会企画の一環として行いました。企画演題等には23名の演者の方にご登壇頂きました。

一般演題は、口演8題、ポスター32題が採択されました。学術委員会の監修のもと、最優秀口演賞1名、最優秀ポスター賞1名、優秀ポスター賞2名を選びました。一般演題の3割の演題は学術集会テーマ・サブテーマに関連したものでした。

学術集会の枠組みの中で、教育研修委員会企画「がん登録実務者リモート情報交換会実務でGO!」、情報交換会(WEB懇親会)が企画され、学術集会と連携する形で、J-CIP委員会企画市民公開講座が企画されました。これらは、学術集会本体プログラムとは独立した形で熱心なコーディネータの手によって企画立案され、WEB会議の特性を十分に生かした活気のある会として学術集会を盛り上げて頂きました。その模様は次頁以降にご報告いただいております。

新型コロナ感染症拡大防止のため、世間の学術集会や会議においてWEB開催が普及してきました。しかし、WEB開催は実開催の代替ではなく、情報共有や意思決定の手法として、WEB方式のメリットを生かした企画や手法を追究していく価値があると思います。実開催にはなかなか参加出来ないがWEB開催ならば参加可能というケースもあるかと思います。従来型の開催様式に拘るのでなければコストを削減も可能かと思います。本学術集会開催は、主催者にとっても大変よい勉強をさせていただきました。本学術集会に関わって頂いた全ての皆様に厚く御礼申し上げます。